

百舌鳥通信

第 11 号
令和 8 年 1 月 8 日
堺市立百舌鳥支援学校
校長 山下 真由美

「干支の順番」



校長 山下 真由美

◆明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひします。今年は午年ですが、干支の順番はどのように決まったかご存じですか。諸説ありますが、昔々、ある年の瀬の日のこと、神様が動物たちにお触れを出しました。「元日の朝、山の頂上の私の家まで来てなさい。最初に到着したものから 12 番目のものまでを、1 年交代でその年の大将にしてあげよう」と言いました。

◆動物たちは、「我こそが 1 番になるぞ!」と張り切っていました。ところが、ネコは話を聞き漏らしてしまい、ネズミにたずねます。するとネズミはわざと 1 日遅れの日付を教えてやり、ネコはそれを真に受けて帰ってきました。

◆足の遅いウシが誰よりも早く 1 日前に出発しました。すると、牛小屋の天井でこれを見ていたネズミが、こっそりウシの背中に飛び乗りました。そんなことは知らないウシが神様の家に行ってみると、まだ誰も来ておらず門も閉まつたままでした。我こそが 1 番だとウシは喜び、門が開くのを待っていました。やがて元日の朝がきて門が開いたとたん、ウシの背中からネズミが飛び降り、ネズミが 1 番となってしまいました。残念ながらウシは 2 番となり、それからトラ、ウサギ、タツ、ヘビ、ウマ、ヒツジ、サル、トリ、イヌ、イノシシの順で到着しました。1 日遅れて出掛けたネコは番外となり、それ以来ネズミを恨んで追いまわすようになったそうです。こうして最初がネズミとなり、動物を当てはめた十二支が広く浸透していったのです。ちなみに、イタチも 12 番にゴールしようとしたところ、最初に来た牛にねずみが隠れていたことに気づかず、自分が 12 番目だと思ったら 13 番目でひどく悲しんだそうです。神様はイタチがあまりにもかわいそうだったので、十二支に入れなかった代わりに毎月最初の日を「ついタチ」にしたと言われています。

◆さて、今年は、「午年(うまどし)」です。午年は十二支の 7 番目の干支で、力強さや前進を象徴する年とされています。また、時間を表す「午前」「午後」の「午」は、かつて時刻を干支で数えていたことに由来し、正午を「午の刻(うしのこく)」と呼んだことから来ていて、特に 2026 年は「丙午(ひのえうま)」にあたります。丙午は 60 年に一度巡ってくる干支で、昔はネガティブに捉えられたことがあります、今ではエネルギーが高まるパワフルな年と言われています。

◆2026 年には、百舌鳥支援学校宮園分校も開校し、新しいことが始まる年になります。子どもたちも様々な事に前向きにパワフルに挑戦していくでしょう。そのような子どもたちの挑戦を私たちは全力で応援します!!さあ、2026 年の幕開けです。今年も百舌鳥支援学校の教育活動にご協力・ご支援いただきますようよろしくお願ひします。

